

SHIMANO

中通し振出船竿

取扱説明書

安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険	
	<p>高压線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故（感電死）を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。</p> <p>気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビリビリと電気を感ずるのはその為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。</p>
	<p>電線との接触による感電 高压線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高压線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。</p> <p>落雷による感電 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様に、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。</p> <p>釣り場以外の電線による感電 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。</p>
⚠ 警告	
	<p>キャスト（投げ）時の注意 キャスティング（投げる）時は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。</p>
⚠ 注意	
	<p>回着のゆるめ方 釣竿の回着（継ぎ部が食い込んで外れない時）は、継目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押し（振出の場合）、継目をゆるめてください。その際、一気に力を入ると釣竿の継目に手をはさみ、けがをすおそれがあります。</p> <p>●竿の構造上、回着を完全に防止することはできません。回着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が折れて破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。</p> <p>●回着をゆるめる時等、ガイド部分を握って節の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでおやめください。</p> <p>根掛かりの外し方 根掛かり（水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはずれない状態）した時は、無理に竿をあらわないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをすおそれがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとって引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。</p> <p>破損時の取り扱ひ方 使用中、万が一釣竿が破損（折れ、割れ、欠け、剥離）した場合は、破損した箇所を手だけがするおそれがあります。</p> <p>子供の手の届く所に置かないでください 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。</p> <p>釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください 事故や怪我につながる恐れがあります。</p> <p>竿の一部や継ぎ等を無理に曲げると折れることがあります 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。</p> <p>安全に釣りを頂くために 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際は、安全のためサングラス（偏光グラス）、帽子の着用をお勧めします。</p>

修理部品に関するお願い

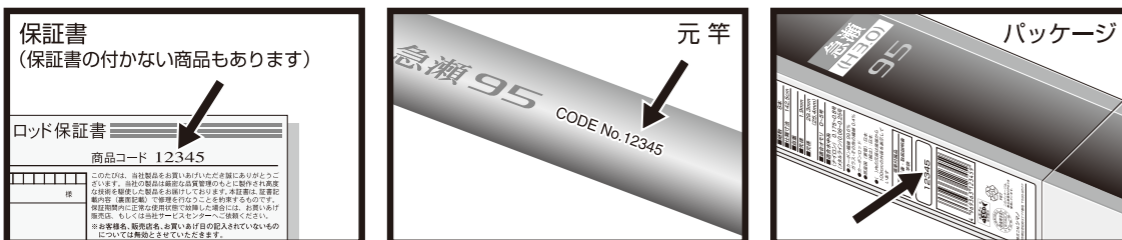
パーツを注文される際には、必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。

弊社では修理部品を商品コード番号によって分類しています。穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書（保証書の付かない商品もあります）、本体元竿、パッケージのラベル等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。

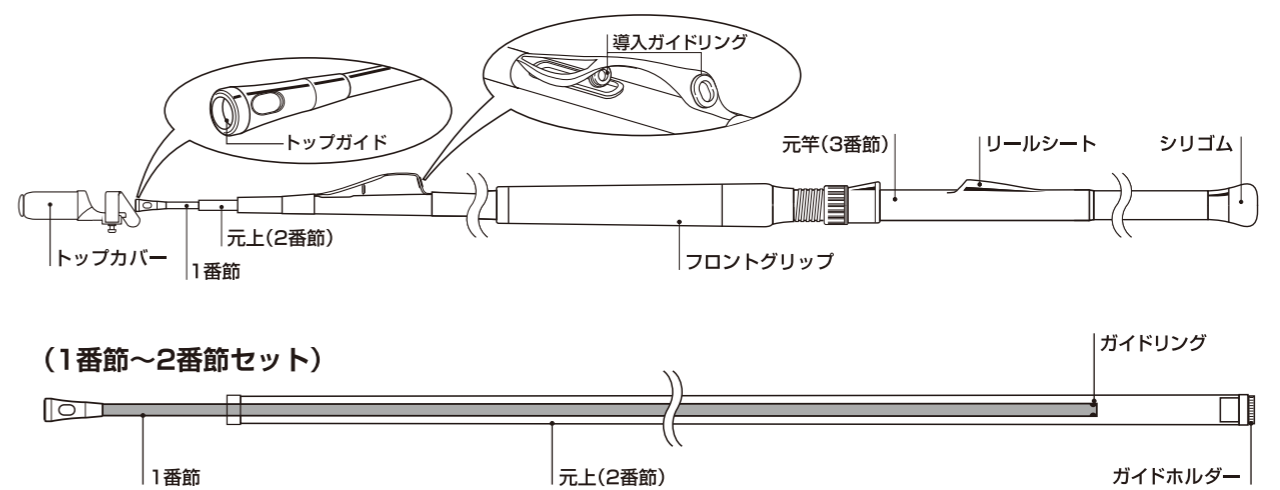
●修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。（例）CODE No.12345



各部の名称と仕様

●イラストは中通し振出船竿の3本仕舞で説明しています。



●ロッドの曲がりについて

現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりがないので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

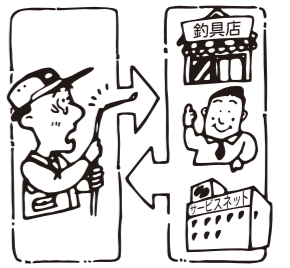
●改造後の責任は負いかねます。

改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。

●万一の故障は全国のサービスネットへ

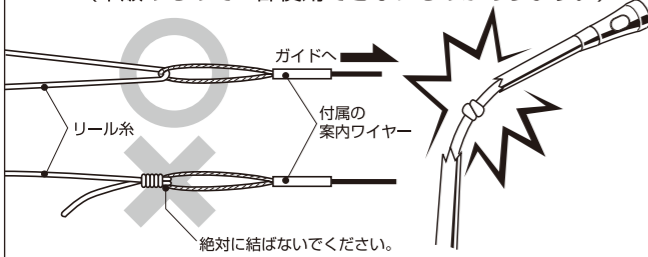
お買い上げの販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。その際、保証書付きの商品は保証書を添えてください。保証期間中の故障は、保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。保証期間経過後の修理、又は保証書無しの商品は、有料修理とさせていただきます。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。



使用上のご注意

- 破損の恐れがありますので、
 - 案内ワイヤーで、リール糸を通す場合は、チチウ部分には絶対に結ばないでください。
 - 案内ワイヤーは、付属の専用ワイヤーをご使用ください。（市販のもので一部使用できないものがあります。）



- 1番節の過度な手曲げは、差し控えてください。

- 使用される道糸は、PE8号以下をご使用ください。（全アイテム共通）

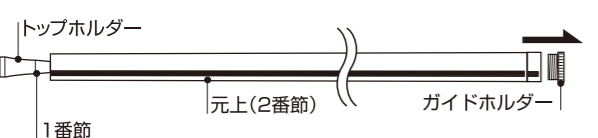
- ウキ止め等をお使いになる時は、あらかじめ1番節に糸に通ることを確認した上でご使用ください。1番節に通す時、抵抗がある場合は無理に通さず、道糸・ウキ止め等を小さいサイズにしてご使用ください。また、ウキ止めの余った部分は短く切ってお使ください。

- 一部の新品の糸では、粘性性粉末等が出て、内面が詰まる事があります。リールに巻き取る時、布等で拭き取りながら巻いてください。

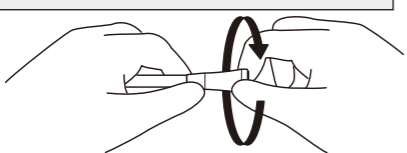
分解・お手入れ方法

●分解手順（3本仕舞の場合）

- 元竿の尻栓を左に回して外します。
- 1番節～元上（2番節）をセットで元竿（3番節）から引き抜きます。
- 元上（2番節）のガイドホルダーと1番節のトップホルダーを外してください。1番節が抜けます。



トップホルダーを外す時は、1番節が折れる原因となりますので、下図のように取り付け部分をつまんでトップホルダーを回すようにしてください。



●組立手順（3本仕舞の場合）

- 組立は前記の分解手順と逆に順次行ってください。
- 組立の時、元上（2番節）のガイドホルダーは十分締め付けてください。ネジの締め付けが不十分ですと、トラブルの原因になります。
- 元竿の尻栓はしっかりと締め付けてください。締め付けが不十分ですと尻栓が外れて紛失の恐れがあります。

- 付属の案内ワイヤーは多少、巻きくせが付くことがあります。手などで強くこじったり、折曲げたりすることは避けてください。付属の案内ワイヤーは小さく巻いたり、強く巻いたりしないでください。手のひらで軽く巻く程度が最適です。



- 案内ワイヤーは、使い終わったら必ず付属のケースに入れ布袋等に収めてください。伸ばしたままの状態にバッグ等に収納するとクセが付く原因となります。

- ラインは、結び目部分の切り残しを取り除いてから巻き取ってください。

結び目でラインをカットした場合、ラインに切り残しが残ってしまい、そのままラインを巻き取ってしまうとインナーガイド部分に詰まる恐れがあります。

ラインの切り残しはラインを指でこじ取り除いてください。

- 糸を通したまま収納する時や、糸を通したまま竿を伸ばす時は、糸の先にオモリ等を付け、竿の内部で糸がたるまない様にしてください。たるんだまま収納したり伸ばしたりすると、内部で糸がかんで、素材や糸に傷がつく恐れがあります。

●竿外表面の使用後のお手入れ

使用後は水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とし、乾いた布で水気をふきとり、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。ロッド外側の頑固な汚れは台所用の洗剤等を含ませた柔らかい布でふき取ってください。

市販のクリーナーやワックス、洗剤や、ベンジン等の有機溶剤をご使用になるときは十分注意してください。塗装を痛める原因になります。また、内部加工面を傷つける恐れがありますので、竿内部には、市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤などを付着させないように注意してください。

●竿内部のお手入れ

竿内部の洗浄は、毎釣行後に真水か、ぬるま湯を通してください。1番節は必ずトップガイドから強く息を吹き込んで残った水分やゴミを取り除いてください。

●ハイパーリベルロッドのご注意

竿内部には、特殊な超撥水処理をしているため、ワイヤーブラシ等は絶対に使用しないでください。（内部加工面を傷つける恐れがあります。）

市販のスプレーやベンジン及びシンナー等の有機溶剤等も内部加工面を傷つける恐れがあり性能が低下しますので、絶対に使用しないでください。

シマノ純正の超撥水仕様「インナーガイド アクティブスプレー」(別売)をご使用ください。

竿内部の撥水性を維持し糸のベタツキを抑え、仕掛けの投入・飛びがスムーズになるシマノ純正のIG専用スプレーです。



ご使用方法

●糸通しから竿セットまでの作業

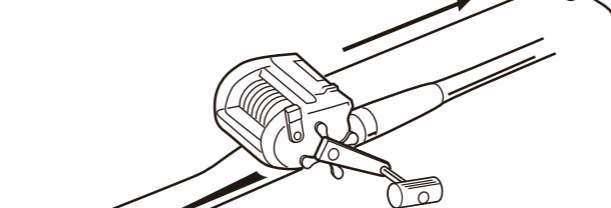
中通し竿のメリットを生かすために、糸通しはできるだけ、乗船前に済ませておくことをお勧めします。

- 竿の糸通しは、元上（2番節）を伸ばします（1番節は収納した状態で）竿を上に向けた状態で行ってください。

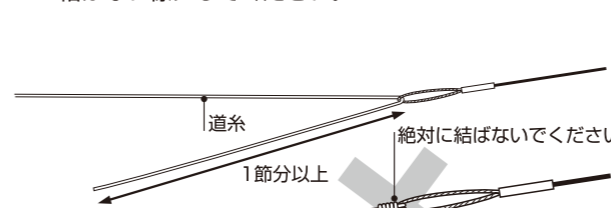
●糸通し作業時の状態（3本仕舞の場合）



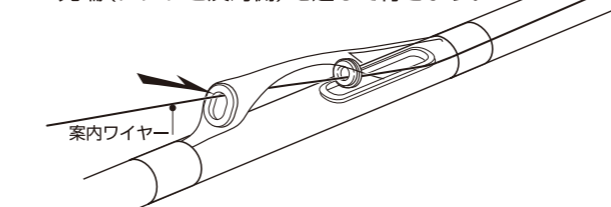
- 元竿にリールを取付けて、道糸を十分に引き出してください。



- 案内ワイヤー先端のチチウ部分に道糸を通し、一節分以上折り返してください。チチウ部分には、直接道糸を結ばない様にしてください。



- 元竿の導入ガイドから、案内ワイヤー先端（チチウと反対側）を通して行きます。

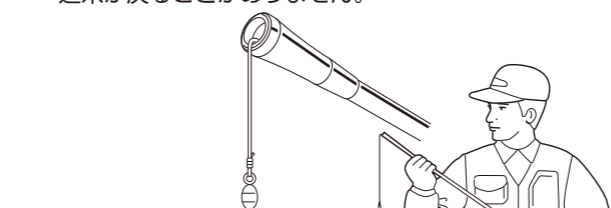


- トップガイドの先端からワイヤーの端が出たら、ワイヤーの引っかかりがないかを確かめながらゆっくりと引っ張って道糸をだしてください。



- 1番節の先端は径が細くなります。もし途中で引っかかる様なことがあればむりをせずにもう1度やり直してください。

- 道糸を通したら、スナップサルカン等を付けてください。道糸が戻ることはありません。



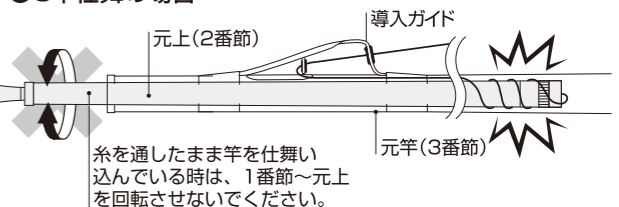
- リールをフリーにした状態で1番節から順番に継ぎ目を固定しながら竿を引き出してください。

●糸を通したまま竿を仕舞う場合

●糸を通したまま竿を仕舞う時は、竿の内部で糸がたるまないようにテンションをかけた状態で仕舞い込んでください。たるんだまま竿を仕舞うと内部で糸が絡む恐れがありますのでご注意ください。

糸を通したまま竿を仕舞い込んでいる時は、1番節～元上を回転させないでください。糸が絡んで破損の原因となります。

●3本仕舞の場合



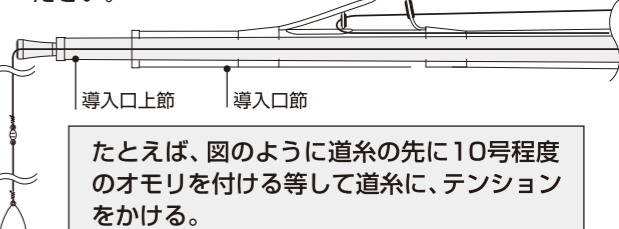
●前項の後に仕掛けをセットする場合

●3本仕舞の場合

- 前項目で仕舞い込まれた状態は導入ガイドから入った道糸が元上（2番節）と元竿（3番節）のすき間に、導入ガイドと元上（2番節）後端のガイドホルダー部の2箇所道糸が180°折れ曲がって入っています。この状態で道糸を出す場合は、1番節から順次引っ張り出しますが、元上を引き出してから行うと、よりスムーズに道糸を出すことができます。

元上を引き出す時に元竿のすき間にある道糸が元上と元竿の合わせの部分に吸い込まれて道糸がカミ込む恐れがありますので十分にご注意ください。

- 導入口上節（2番節）を引き出す時に、内部で道糸がたるまない様にトップガイドから出ている道糸には、常にテンションをかけたままゆっくり引き出してください。

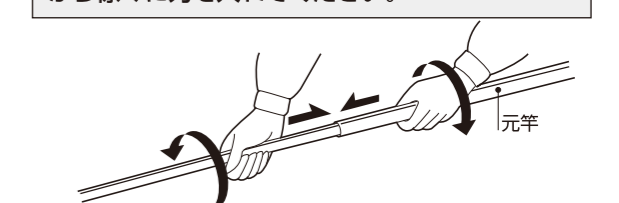


- 導入口上節（2番節）が引き出した後に1番節をセットしてください。

●ご使用後の収納方法

- 釣り終了後は、糸カミトラブル防止のため、仕掛けを切り道糸をリールに巻き込み、各節を収納してください。
- 必ず元上から順番に継ぎ目近くの両側を両手で持ち、下図のようにヒネリながら押しやうにして、継目の固定を緩め、元竿に順番に収納してください。

この際、一気に力をいれると、釣竿の継目に手をはさみ怪我をする恐れがありますので、注意しながら徐々に力を入れてください。



SHIMANO FISHING ROD

フィッシングロッドを末永くお使いいただくために

フィッシングロッド 取扱説明書

このたびは、シマノフィッシングロッドをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。いかに軽く丈夫なロッドでも、乱暴な取り扱いでは、竿を傷めてしまいます。釣り人にとって、竿は大切な体の一部。この説明書をお読みの上未永く、ご愛用いただきますよう、お願い申し上げます。

SHIMANO

安全上のご注意 ご使用前に必ずお読みください。

⚠ 危険	
⚠	高圧線への接近による放電や感電、さらに落雷による感電は、最悪の場合重大事故(感電死)を招く恐れがあります。尚、水に濡れたグラスロッドも同様の危険がありますのでご注意ください。 気象条件により、空気中に電気を帯びている場合があります。ビビリと電気を感じるのとは為です。天候の変化等により危険を伴いますので、そうした場所での釣りはお避けください。落雷・感電による感電死を招く恐れがあります。
⚠	電線との接触による感電 高圧線・線路・鉄橋等の電線による感電に注意してください。釣竿は素材特性上、電気をよく伝えます。特に電線等に接触、または、釣竿を近づけただけでも感電して死亡事故の原因となります。釣り場を移動する時は竿をたたみ、高圧線・線路・鉄橋等の電線の下または近くでは絶対に使用しないでください。 落雷による感電 落雷による感電に注意してください。使用中、雷が発生した時は、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。また、雷の発生がなくても、釣竿から電気を感ずるようなときも同様、ただちに釣竿から離れ、安全な場所に避難してください。 釣り場以外の電線による感電 釣り以外で釣竿を使用し、電線に触れる事故が発生しています。釣竿を使用する時は、周囲の安全に十分注意してください。
⚠ 警告	
⚠	キャスト(投げ)時の注意 キャスティング(投げ)の際は、周囲に人がいないか、十分に安全を確認してください。釣針が人にささったり、ルアーフック、オモリ等が人に当たると非常に危険です。
⚠ 注意	
⚠	固着のゆるめ方 釣竿の固着(継ぎ部が食い込んで外れない時)は、継ぎ目の両側近くに、すべり止めを当てて握り、互いに逆方向へヒネリながら押し(振出竿の場合)、継ぎ目をゆるめてください。その際、一気に力を加えると釣竿の継ぎ目に手をはさみ、けがをする恐れがあります。 ●竿の構造上、固着を完全に防止することはできません。固着をゆるめる時等、強く竿を握ると竿が潰れて破損し、手等に怪我をする場合がありますのでご注意ください。 ●固着をゆるめる時等、ガイド部分を握って節の抜き差しはしないでください。ガイドの変形や糸止部の破損の原因になり、手等に怪我をする場合がありますのでお避けください。 根掛かりの外し方 根掛かり(水中、陸上での障害物に仕掛けが絡みはすれない状態)した時は、無理に竿をあらさないでください。竿が折れたり、外れた仕掛けが飛んできて、けがをする恐れがあります。根掛かりは、出来るだけ、糸を手にとり引っ張って糸を切ってください。その際、糸で手を切ることがありますので、手袋やタオルで手を保護してください。 破損時の取り扱い方 使用中、万が一釣竿が破損(折れ、割れ、欠け、剥離)した場合、破損した箇所を手などがけをする恐れがあります。 子供の手の届く所に置かないでください 誤使用による事故や怪我に繋がる恐れがあります。 釣竿を釣り以外の目的に使用しないでください 事故や怪我につながる恐れがあります。 竿の一部や穂先等を無理に曲げると折れることがあります 折れた竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがありますのでご注意ください。 安全に釣りを頂くために 万一、竿が破損してしまった場合、破損した竿の一部が反動で顔や体に当たり、怪我をする恐れがあります。釣りをする際は、安全のためサングラス(偏光グラス)、帽子の着用をお勧めします。

※本製品の本体には法律に基づき、竿による感電に注意して頂くよう注意喚起シンボルシールが貼ってあります。簡単にはがれないように、シールの上にコーティングしてありますので、はがさないようにお願いします。尚、印刷されている機種もあります。

フィッシングロッド取扱い上の注意

使用上のご注意

ガイド付き振出し竿の場合……

●トップカバーをはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると穂先を折ることがあります。



●移動ガイドは、確実にセットしてください。また、ガイドに道糸を通し忘れないよう注意してください。それらが原因で穂先を折ることがあります。



●糸ガラムシは、道糸を巻き込まないでください。竿の一部に無理な力がかかり折れることがあります。

ガイド付き並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合……

●竿を継いで伸ばす際、前後のガイドのセンター合わせをすると同時に継ぎ部の合わせをしっかりと行ってください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。

●フルキャストを繰り返す場合、定期的にはロッド継ぎ部の合わせ具合をご確認ください。合わせが緩いと、キャスト時に合わせが抜ける恐れがあります。

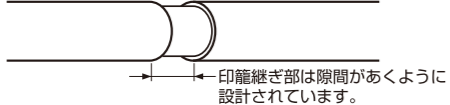
●竿を継いで伸ばしたり、あるいは仕舞う際に、ガイド部を持って捻じったりしないでください。ガイドの破損、ガイドの変形、厚塗り部の割れや剥離、糸巻きが破損する恐れがあります。

ロッドホルダー、ロッドクランプを取り付ける場合……

かからず竿・船竿については、金属製ロッドホルダー及び金属製ロッドクランプの使用時に強い締付を行ないますと、締付部(素材等)の破損が生じる恐れがあります。この様な破損による損害については当社としては補償しかねますのであらかじめ御了承ください。

スピゴットフェール(印籠継ぎ)の場合……

スピゴットフェール(印籠継ぎ)部は隙間があくように設計されています。これは季節や環境の変化による合わせ部の膨張、収縮と磨耗に対応するためのものです。充分強度を持たせており使用上の問題はありませので安心してお使いください。無理矢理差し込んだりすると口割れをおこしたり、ぬげなくなる恐れがありますので、必要以上に差し込まないでください。



ズームロッド操作時のご注意……

グリップ部とズーム部には段差があります。ここを握って急激にズームインすると、手を挟む場合がありますのでご注意ください。

ガイドなし竿の場合……

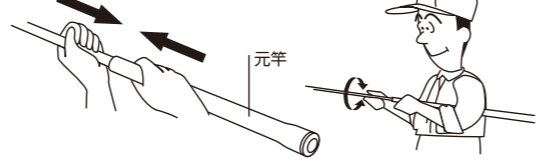
●上栓をはずす時は、真上に引き抜くようにしてください。無理にひねったり、こじったりすると玉口部分を傷つけることがあります。



●糸ガラムシは、そのまま使用しないでください。また、取り込みの時は、無理によせたり垂直方向への引き抜きは、やめてください。竿の一部に無理な力がかかり破損の原因になります。

穂先、#2、#3 玉口折れにご注意……

●竿を仕舞うときは、手元から順次納めてください。穂先、2番、3番など細い部分を納める時は、元竿を脇にはさみ、継ぎ部のすぐ上とすぐ下を持って、ひねりながらねじ込みように納めてください。



この時、仕舞う節の継ぎ部付近をそれより太い節の玉口内側に当たらないように注意してください。玉口の端で細い節を傷める恐れがあります。仕舞う時に傷めると、次回釣行時に荷重がかかった際に破損する恐れがあります。

●竿尻を何かにあてがって押し込む場合は、何か柔らかい物の上に竿尻をあてがい、手元から順に一本ずつ納めてください。この時竿尻を水の中につけないようにしてください。

●仕舞う時の長い竿を脇にはさんで伸ばしたり、仕舞ったりするときは、通常の竿よりも脇を中心とした回転方向の力が、かかりやすいので#2、#3の玉口を折らないようご注意ください。

ソリッド穂先に関するご注意……

穂先に用いられるソリッド材料は、カーボン或いはグラス繊維が一方向のため、トップガイドなどを持って捻ると破損の恐れがあります。ガイドを持って捻らないでください。

リールシートに関するご注意……

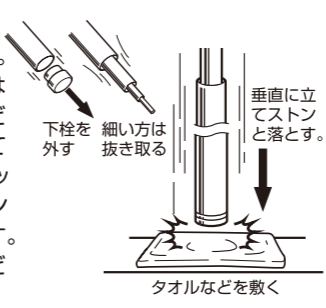
リールを取り付けていない状態で、ナットスクリーを締め込みすぎると破損する恐れがあります。フードの位置がリール脚の長さよりも短くなるまで締めないでください。



継ぎ目がとれにくくなった場合

ガイドなし振出し竿の場合……

固着したところより細い(穂先方向)部分を、まず抜き取ります。元竿の中に仕舞い込んだロッドはそのままにして、板面等それほど硬くない水平面に垂直に立てて持ちます。元竿や仕舞い込んだロッドを誘導管にして、ストン、ストンと落とせば意外に簡単に外れます。このとき、タオルや段ボールなどを敷いておけば、より安心です。



並継ぎ・印籠継ぎ竿の場合……

スベリ止めのゴムシートや輪ゴムを当てて、図のように2人で向きあい、継ぎ目に近いところをしっかりと握ります。お互いに、逆方向にゆっくりとネジリながら引き抜きます。



ガイド付き振出し竿の場合……

並継ぎ竿と同じ要領です。お互いに逆方向にネジリながら、ゆっくりと押し込みあいます。

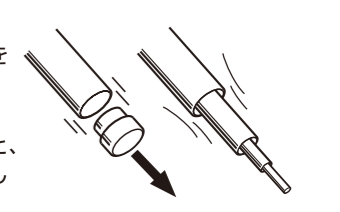
この時、竿に手をはさむ場合がありますので、手袋をつける等してご注意ください。



※ガイドを外して、ガイドなしの要領で行う方法もありますが、ガイドを外すときの熱の加え方が難しく、おすすめできません。

継ぎ目に砂が入った場合……

振出し竿は、元竿の下栓を外し、一本一本抜き出して、竿の内側を洗い、手入れしてください。ガイド付きの竿は、下栓を外し、よく水洗いをして砂を流したあと、風通しの良い場所に日陰干しをしてください。



いわゆる固着は、水が付着した時や投げの力や魚の強い引きなどで多かれ少なかれ起きます。力かせに、無理やり外そうとすれば、竿を傷めてしまいます。上記のような要領で行ってください。それでも無理なときは、シマノサービスネットにご相談ください。

その他のご注意

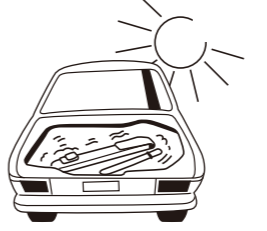
- 竿が曲がる際に、糸巻き部の厚塗りが竿の曲がり追随できず、ひびが入ることがありますが、ガイドやリールシートの固定力には問題ありません。現在の生産技術上、ひび割れを防ぐことはできない状態です。あらかじめご了承ください。
- 竿は一本一本、手作業で仕上げられています。そのため、商品により色調や質感に若干の差が生じる場合がありますがご了承ください。

釣行後のお手入れもお忘れなく

水洗いをして、汚れや塩分をきれいに落とし、水気をふきとります。このあと、風通しの良い場所で、日陰干しをして、水気を完全にふきとってください。ロッド部はシリコンクロスなどで空ぶき。ガイドやリールシートは防錆スプレーを。こうしておけば、塗装部の水ぶくれ(プリスタ)や、金属部のサビなどをシャットアウトできます。

車のトランクルームなどに長期間放置しないでください。

高温、密閉状態での長期間放置は、ロッドの大敵。釣行後は、上記の要領で手入れのあと、風通しの良い場所にしまってください。



タワシ・みがき粉・ベンジン及びシンナー等のご使用は絶対に避けてください。

ロッドの汚れは、真水又はぬるま湯で洗った後、乾いた布でよく拭きとってください。注)市販のロッドクリーナーやワックス・洗剤等をご使用になる場合はくれぐれも注意してください。ロッドによっては塗装及び時にはロッドまで傷める原因になります。



竿の表面を布等で強くこすると、塗装の種類によっては色落ちが発生する場合がございます。ただし、塗膜そのものが剥離したり、ロッドの機能に影響を及ぼす恐れはございませんので、あらかじめご了承くださいませ。また、衣服等に色が付く場合がありますのでご注意ください。

修理部品に関するお願い

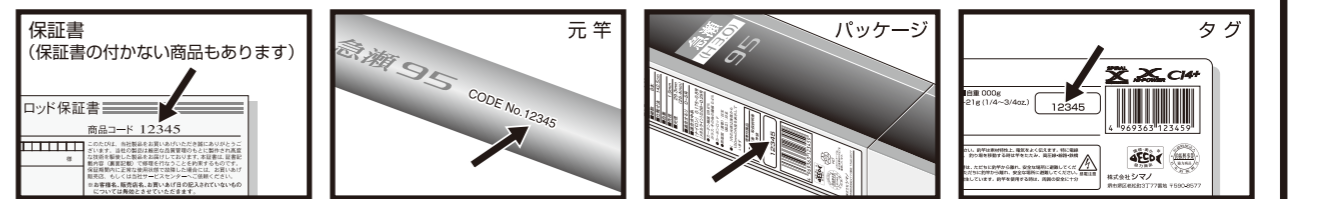
パーツを注文される際には、必ず商品名と商品コード番号をお知らせください。

弊社は修理部品を商品コード番号によって分類しています。

穂先交換など自分で修理される場合には、商品コード番号をお知らせください。商品コード番号は、保証書(保証書の付かない商品もあります)、本体元竿、パッケージのラベル、タグ等に記載されています。商品コード番号を控えて、修理の際には必ず御提示ください。

●修理対応期間を過ぎた場合は保証期間をお断りすることがございます。修理対応期間につきましてはシマノ全国サービスネットにお問い合わせください。

※商品コード番号は、数字の5ケタになっています。(例) CODE No.12345



●ロッドの曲がりについて

現在のロッド生産技術上、グラスロッド、カーボンロッドの違いを問わず各部分の曲がりを100%排除することは不可能な状態です。特にカーボンロッドに於いては繊維自体の持つ強い剛性のため、ロッド全体に垂れ下がりがないので従来のグラスロッドに比べ曲がりかどうしても目立ちます。強度機能上は問題ありませんので、ご安心ください。

●改造後の責任は負いかねます。改造後の故障については、保証期間中であっても負いかねる場合があります。ご注意ください。

●万一の故障は全国のサービスネットへ

お買い上げの販売店又は、お近くのシマノサービスネットへご連絡ください。その際、保証書付きの商品は保証書を添えてください。保証期間中の故障は、保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。保証期間経過後の修理、又は保証書無しの商品は、有料修理とさせていただきます。

※この製品の補修用性能部品の保有期間は、製造中止後6年間としています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。修理対応期間を過ぎた場合は修理をお断りすることがございます。性能部品以外は製造中止後6年以内でも供給できない可能性があります。

